

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 地域高規格道路名豊道路 一般国道23号 知立バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：愛知県安城市城ヶ入町 至：愛知県豊明市阿野町		延長 16.4km
事業概要 一般国道23号知立バイパスは、愛知県安城市城ヶ入町を起点とし、同県豊明市阿野町に至る延長約16.4kmの道路で名古屋都市圏と豊橋間を結ぶ地域高規格道路の一部区間です。知立バイパスは、国道1号、23号の幹線道路の交通改善、三河港利用の物流交通の効率化、西三河地域の地域振興支援等を目的として事業を推進しています。		
S47年度事業化	S47、S49年度都市計画決定	S48年度用地着手
全体事業費 約725億円		事業進捗率 91%
		供用済延長 16.4km (暫定供用済み)
計画交通量 54,200台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.2 (残事業) 10.0	総費用 (残事業)/ (事業全体) 152/1,074 億円 事業費 : 94/1,016 億円 維持管理費 : 58/58 億円
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 1,514/4,461 億円 走行時間短縮便益: 1,473/3,758 億円 走行経費減少便益: 23/463 億円 交通事故減少便益: 17/240 億円
基準年 平成21年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動: B/C=11.2(交通量+10%) B/C=8.8(交通量-10%) 事業費変動: B/C=9.4(事業費+10%) B/C=10.6(事業費-10%) 事業期間変動: B/C=9.7(事業期間+10%) B/C=10.2(事業期間-10%)		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【約43,615万人時間/年→約43,236万人時間/年 約1%削減】 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 【国道1号：安城市東栄町三丁目(12.5km/h)、国道23号：安城市高棚町新池(11.8km/h)、安城市榎前町井杭山(9.2km/h)】 ・幸田町から県営名古屋空港へのアクセス向上が見込まれる。【約119分→約83分】 ②物流効率化の支援 ・豊明市から重要港湾三河港へのアクセス向上が見込まれる。【約120分→約51分】 ③都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。 【知立市、刈谷市、安城市土地区画整理事業施工中：8地区】 ④国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路の位置づけあり。【名豊道路】 ⑤個性ある地域の形成 ・豊明市からJAあいち三河幸田憩いの農園へのアクセス向上が見込まれる。【約47分→約36分】 ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・刈谷市から安城更生病院(三次医療施設)へのアクセス向上が見込まれる。【約27分→約20分】 ⑦災害への備え ・愛知県地域防災計画(平成21年6月策定)において第一次緊急輸送路に位置づけられている。 ・並行する国道1号の代替路を形成する。 ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量が約24千t/年(約1%)削減。【13,516千t/年→13,492千t/年】 ⑨生活環境の改善・保全 ・NO2排出量が約10.9t/年(約10%)削減。【106.2t/年→95.3t/年】 ・SPM排出量が約0.6t/年(約10%)削減。【5.6t/年→5.0t/年】		
関係する地方公共団体等の意見 ・10市5町で構成される名豊道路建設推進協議会が未供用区間の早期完了、交通混雑区間の立体化および4車線化を要望。 ・県知事の意見： ○対応方針(案)「事業継続」について異議なし。 ○名豊道路は物流の軸であり、国道1号のバイパスとしての整備効果が発揮されるよう、全線の継続的な事業促進を図っていただき、早期の効果発現をお願いしたい。 ○事業実施にあたっては一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。		
事業評価監視委員会の意見 「事業継続」することは「妥当」である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		

- ・幹線道路および知立市街地の交通混雑
- ・三河港の発展
- ・観光施設の進展
- ・沿線地域の開発振興
- ・自動車関連産業の発展

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・全体事業進捗率は、約91%（平成21年度末見込み）
- ・用地取得率は、約100%（平成21年度末見込み）
- ・芦池IC～野田IC間：L=1.9km 平成21年1月21日に高架4車線供用。
- ・安城西尾IC～和泉IC間：L=2.6km 橋梁部の下部工工事を実施中。
- ・和泉IC～芦池IC間：L=3.9km 橋梁部の上部工工事を実施中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

安城西尾IC～和泉IC間：L=2.6km、和泉IC～芦池IC間：L=3.9kmについて完成高架4車線の早期供用に向けて鋭意事業推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

連続高架橋の構造形式の見直し等によりコスト縮減を図る予定。

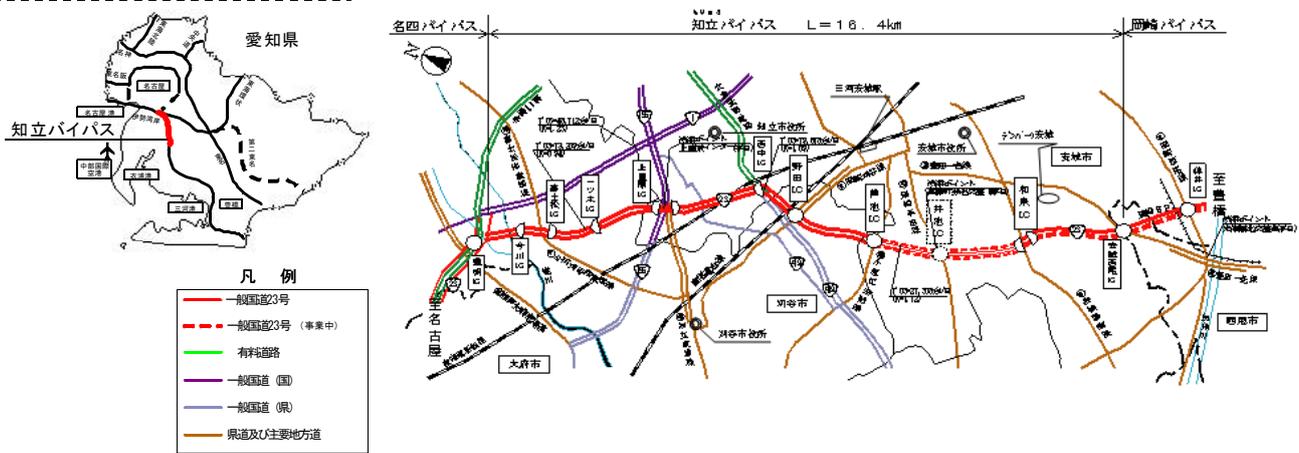
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。